

公安委員会定例会議(第17回)の開催状況

第1 日 時 令和6年7月3日(水)
午後2時07分 ～ 午後3時20分

第2 出席者 五葉委員長、佐伯委員、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
交通企画課長、総務課長

第3 議事の概要

1 小野委員説示

本日は、「ハインリッヒの法則」についてお話ししたいと思います。

毎年7月1日から7日までの一週間は「全国安全週間」です。昭和3年に始まって以来、一度も中断することなく、今年で97回目を迎えました。労働災害は、長期的に見ると減少していますが、平成21年度以降は増加傾向にあり、特に転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害や転落・墜落などの死亡災害が後を絶たない状況です。こうした災害の分析を行う上で重要となるのが「ハインリッヒの法則」です。

この法則は、米国の損害保険会社で安全技術者として働いていたハインリッヒが、事故事例に基づいて導き出した経験則です。1件の死亡災害を含む重大事故の背後には29件の軽微な事故が、その背後には300件のヒヤリハットが隠れており、重大事故を防ぐには、軽微な事故やヒヤリハットの段階で対策を講じることが重要であるということを説いています。

ヒヤリハットの重要性は、事故には至らなかったものの、事故が起こりそうになった事例を見逃さず、記録や分析をすることで、潜在的な危険要因を特定することです。例えば、作業場で足元が滑りやすい場所に気付いた場合、その場ですぐに対応しないと、後々重大な転倒事故が発生するリスクが高まります。ヒヤリハットは重大事故の前兆であり、ヒヤリハットを見逃してしまうと、重大事故の発生に繋がるのです。

軽微な事故の分析と対策も重要です。事故の原因を徹底的に分析し再発防止策を講じることにより、労働環境の安全性は高まります。例えば、工具の取扱いに関する軽微な事故が頻発した場合には、使用方法の再教育や管理方法の見直しなど具体的な対策を講じることが必要です。軽微な事故を軽視せず、真剣に対処することが重大事故の未然防止に繋がるのです。

「ハインリッヒの法則」を用いた教育は、従業員にリスクの認識と対策の重要性を理解させる効果的な方法であり、過去の事故データを基にしたシミュレーションや実際のヒヤリハット事例を共有することにより、従業員の安全意識を高めることができます。また、330件のクレームには、1件の重大なクレーム、29件の軽いクレーム、300件の報告されない不満や苦情があると考えられます。ハインリッヒの法則は、職場や業種を問わず活用できる汎用性があることから、愛媛県警察においても、公務災害の減少や問題の解決に役立てていただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和6年第16回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

(3) 運転免許停止処分の審査請求に係る裁決

交通部から、運転免許停止処分の審査請求に係る裁決について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 広報推進・移動交番車の活動状況

生活安全部長から、広報推進・移動交番車の活動状況について報告があった。

委員から、「県民と警察の垣根を取りはらうとともに、各種事件・事故の防止や情報提供に役立つ良い取組だと思うので、今後も積極的に活用していただきたい」との発言があった。

委員から、「カラフルでデザインも親しみやすいと思う。繁華街で活動すると県民は安心して歩けるし、機動力を生かして過疎地に赴き住民相談にも対応できることから、地域の人にとってはありがたい。ぜひ今後も継続していただきたい」との発言があった。

委員から、「移動交番はパトカーとは違った役割や機能がある。その特性を生かして地域住民のために幅広く活動していただきたい」との発言があった。

(2) 犯人隠避事件被疑者の逮捕

刑事部長から、犯人隠避事件被疑者の逮捕について報告があった。

委員から、「テクノロジーの進歩により捜査手法も進化していることと思う。今後も様々な技術や手法を駆使して事件解決を図っていただきたい」との発言があった。

委員から、「計画性や組織的背景が見え隠れする事件であるが、関連する犯人が捕まって良かった。事件を立証できるように頑張っていたきたい」との発言があった。

委員から、「立証には困難や苦労があり大変だと思うが、全容解明に向けて努力していただきたい」との発言があった。

(3) 高校生とのコラボレーションによる交通安全広報動画の制作

交通企画課長から、高校生とのコラボレーションによる交通安全広報動画の制作について報告があった。

委員から、「高校生と県警察の珍しいコラボレーションで、通常の広報動画とは雰囲気が異なるほか、マスコミ等の注目度も高く、良い取組だと思う。今後も継続して取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「ユーモアのある動画で親しみやすく、非常に良い取組だと思う。この企画を持ちかけ、高校生と協力して取り組んだ点を評価したい。他校の放送部もあるので、第2、第3のコラボレーションに期待したい」との発言があった。

委員から、「高校生とコラボレーションするという発想が素晴らしい。ぜひ今後も続けていただきたい」との発言があった。

(4) 官民一体となった国際テロ対策業務の推進状況

警備部長から、官民一体となった国際テロ対策業務の推進状況について報告があった。

委員から、「異常を感じたときに気軽に警察に通報できることが重要である。ホームセンターでの訓練や関係機関との連携を通じて国際テロ対策の取組が広がることを期待している」との発言があった。

委員から、「国際テロは、身近なところで発生がなく、どこか遠い世界の話かと思っていたが、警察など治安当局による徹底した水際対策のおかげだと分かった。今後も各種対策を推進し未然防止に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「関係機関と緊密に連携し、国際テロ対策を推進していただきたい」との発言があった。

4 その他

本部長から、「委員から「ハインリッヒの法則」に関する説示をいただいた。現場における警察活動の多くは危険と隣り合わせだが、“危険との向き合い方”には2種類あると思っている。1つは、危険を承知した上で対応する場面、例えば大地震で余震や家屋倒壊の危険がある中で救助活動に当たる場合や、拳銃を所持して逃走中の被疑者の潜伏先に突入する場合などである。もう1つは、日常の各種警察活動における小さな事故等で、危険が潜んでいるにもかかわらずあまり認識していない場合である。前者の場合は、職員自身が注意深くなり、同僚とも相互に注意し合うことから、意外と事故は起きない。しかし、後者の場合は、小さな事故を軽視し、集中力や緊張感を欠くと大きな事故が起きる可能性があり、むしろこちらの方が怖い。殉職等の痛ましい事故を防ぐには、委員御指摘のとおり、「ハインリッヒの法則」が重要である。日常的な事故であっても軽視したり形式的な指導に終わらせることなく、しっかりと原因を分析し再発防止策を講じるなどして事故防止に努めてまいりたい」との発言があった。

以 上